

平成26年度特別養護老人ホーム「千寿の園」事業報告書

- 理念 I 利用者・家族・職員の誰もが安心して生活できる「場」であること
II 自分の家族、自分が入居してもいいなと思えるケアを創ること
サブテーマ＝美しい所作(言葉遣い・態度・仕草など)でのコミュニケーションの実行
上記の理念に基づいて、事業を展開してきた。以下、報告とする。

第1 概況

1 利用率(稼働率)について

平成26年度は例年に比し退去者が多く、退去→入居に至る過程で入居者の選定に時間がかかり、また入院日数も増加しており稼働率の目標値確保に至らなかった。

2月(1/25～2/10・利用者職員合計14名の罹患)のインフルエンザ感染も入居、短期とも稼働率を押し下げる要因となった。

傾向として、家族介護者の高齢化及び在宅サービスの拡大に伴い、入居者の**超高齢化傾向**があり、在籍日数が減少している。(入居年度内退去者－24年度4人・25年度0人・26年度7人)

2 修繕・改修工事及び対費用効果について

大きな修繕工事は、浴室専用給湯工事2,073,600円、新館ボイラー取替工事857,952円であるが、小規模工事は31工事2,536,268円となっている。

対費用効果としては、25年度に特殊浴槽更新を行い、かつ上記工事を施工したことにより24年比26年(両年とも1～12月の年比較)で水道使用量1,821m³・397,250円の減、ガス使用料量3,035m³・459,227円の減、電気使用量は24,700KWhの減になり効果はあったが、電気料は料金改定で538,355円の増加となった。

3 介護力向上(質のレベルアップ)への取り組みについて

26年度も全国老人福祉協議会第12回介護力向上講習に延べ18人の職員が参加し、25年度の実践を一層進める事が出来た。

25年5月に排使用具が「おむつ」で使用率は79.7%、平均水分摂取量806mlであったものが27年3月にはおむつ使用率27.9%、水分摂取量1,167mlに向上してきている。

全国順位	施設名	市町	入居数	平均介護度	平均水分量	排便場所「ベッド上」	排使用具「おむつ」
147	千寿の園	菊川	69	4.0	806ml	47.8%	79.7%

25年6/1付 参加施設総数179施設

全国順位	施設名	市町	入居数	平均介護度	平均水分量	排便場所「ベッド上」	排使用具「おむつ」
38	千寿の園	菊川	68	4.0	1167ml	11.8%	27.9%

27年1/1付 参加施設総数157施設

介護力向上講習会 データから

ここ数年のケアの質の向上・変化については、27年3月で私事により退職した副主任2人の感想を以下、掲載する。

A 現施設経験5年9ヶ月(女性33歳)

- ・ケアの質が向上した。研修等に行く機会も増えて個々のレベルも上がってきたのではと思う。個別ケアに対しての意識が強くなったと思う。
- ・PCの導入や備品、物品の購入により職員も働きやすくなったし利用者情報量も増えた。朝礼や夕礼などあまり必要のないものを省くことで効率がよかった。

B 現施設経験4年9ヶ月(女性29歳)

- ・居室やスタッフルーム等の環境整備がなされ、椅子・テーブルも新しくきれいになった。環境が変わったということは、その分、職員が利用者に対するケアや考え方にも変化があったということだと思う。利用者一人ひとりに対する尊重、思いやりも大きく強くなった。職員が研修で新しい知識を得るようになり、以前よりももっともっと良い介護がしたい、他の施設よりもっとよくなりたいと思うようになった。介護や医療に対する知識や技術はかなりレベルが上がったのではないと思う。勉強会や委員会、フロア会議はとても意味のあるものだった。

4 ひきこもり支援事業を中心とした社会的地域貢献（連携）事業の展開

平成24年度ひきこもり支援事業として市社会福祉協議会と共同で取り組んだ成果としてボランティアから中間的就労を経た対象者が27年度より一般的就労、週32.5時間の労働者として雇用できるまでになった。

地域貢献（連携）事業としては、地域ケア会議・地域ケア実務検討会の構成メンバーとして困難事例の検討に寄与し、また、菊川市立総合病院の事業評価委員、菊川市立総合病院及び市内社会福祉施設等連絡協議会の中心施設として引き続いて貢献してきている。平成18年度から取り組んできた菊川病院と福祉施設の協働実践は、県主催の静岡県社会福祉研究会において病院地域医療支援課と共同発表し、発表テーマ『福祉・介護と医療との地域連携への取り組み』は「優秀賞」を受賞した。

26年度に発足した「菊川市地域医療を守る会」にも役員として参画している

第2 全体の状況

1 利用状況（利用率）

平成26年度の利用率は、表-1・表-2のとおりである。入院日数も増加しており、入居者の超高年齢化、重度化が影響しているのではないかと考えられる。

表-1 入居者利用（稼働）状況表

年度	入居稼働率	短期利用率	退去者数	入院日数
平成24年度	99.0%	84.5%	23人	120日
平成25年度	98.6%	81.6%	19人	156日
平成26年度	97.4%	72.7%	37人	221日

※入院日数は稼働率には含まない

表-2 90歳以上の入退去者状況

単位：人（入退去数における割合）

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
退去者数	12 (52.2%)	8 (42.1%)	19 (51.4%)
入居者数	6 (26.1%)	3 (15.8%)	10 (30.3%)

2 経営状況（経営活動による収支）

平成 26 年度の収入は、319,095 千円で、主な内訳は、介護保険収入 314,928 千円、その他収入 2,773 千円、補助金等 1,394 千円である。

一方、支出は、326,352 千円で、主な内訳は、人件費 225,316 千円、事業・事務費等 92,148 千円、施設整備・借入金償還等 8,888 千円であった。

また、借入金の償還は、福祉医療機構へ元金 5,000 千円、利息 525 千円、元利償還金合計 5,525 千円である。

収入

(単位 千円)

区分	26年度	25年度	増減
介護保険	314,928	320,526	△5,598
その他	2,773	2,967	△194
補助金等	1,394	1,791	△397
計	319,095	325,284	△6,189

支出

区分	26年度	25年度	増減
人件費	225,316	216,066	9,250
事務、事業費等	92,148	96,419	△4,271
施設整備・償還金等	8,888	12,966	△4,078
計	326,352	325,451	901

3 職員状況（部門別職員数）

平成 26 年度末の常勤職員は 37 名で、内訳は介護職員 25 名、看護職員 4 名、管理栄養士 1 名、事務室職員 7 名である。また、非常勤職員は、嘱託職員・医師を含め 26 名で全体の職員数は 63 名である。

(平成 27 年 3 月 31 日現在)

(単位 人)

区分	事務室			介護職員	医務室	調理	計
	施設長 副施設長 介護部長	相談員・主任・事務・居宅・管理	送迎担当 清掃員・洗濯員	主任 副主任 一般	看護師・嘱託 医師	管理栄養士	
正規	2	5	—	25	4	1	37
非正規	—	2	6	12	6	—	26
計	2	7	6	37	10	1	63

26年同期	2	5 (2)	5 (5)	35 (12)	10(7)	1	59
-------	---	-------	-------	---------	-------	---	----

注) 1 () は、非正規職員

注) 2 育休中が1人(介護部長)

年度途中退職が正非職員合計8人、途中採用も8人である。産休育休入りが1人、復帰2人であった。人材確保は引き続き困難であり、新聞折り込み・ハローワークにおいても求職者はない。また、近隣の大型特別養護老人ホームや新たな居宅系介護施設の新設による求人状況は大きな影響があり、確保の困難に一層拍車をかけている。

4 特記事項

(1) 25・26年度の水分補給・「おむつ外し(水分補給)」実践の中間総括

①研修参加者:全国講習及び関係研修 45名

②講演会:灯光園澤島久美子施設長・高麓原川大介係長 計2回

③研修旅費:1,388,250円

④水分材料費:873,856円

⑤テキスト代:33,425円

合計:2,295,531円

(2) 家族・利用者の声に耳を傾け寄り添う活動

①家族懇談会 6/7(土)開催—参加27家族(34名)

表-1 おむつ外し(水分補給・運動をベースにした支援)の実践について

回答内容	回答数	割合
意義を理解し満足である	21	78%
// やや //	2	7%
どちらともいえない	1	4%
やや不満である	1	4%
無回答	2	7%

懇談会出席者に対しアンケートを実施した。表-1のように水分補給・運動への取り組み＝「オムツ外し」の実践については、ほぼ家族の理解を得ていると思われる。

また、「ケア・介護方法・食事等について」の問いに対しては、満足している92%、ほぼ満足している4%とほとんどが満足していると回答している。

「職員の態度、接し方」については、満足している88%・ほぼ満足している4%と多くの家族の満足度が得られているが、どちらとも言えないとする回答もあり、今後の課題と思われる。

家族の様子としては、面会、外出の多い家族が増えたが、一面、ほとんど面会にも来ず、必要書類がなかなか提出されない家族やクレームが多くなっており、両極化の傾向が見える。また、身元引受人の高齢化(60歳以上)も顕著になってきている。

②入居者懇談会 1月27日(火)2階13名・3月6日(水)3階10名。

出された要望として、女性入居者からの入浴に関して同性介助の要望やケアがや

や粗雑な職員もいるのではないかという意見があった。

(3) 施設行事

①夏祭り（旧納涼祭）－7月19日（土） 利用者家族23世帯39人・来賓17人・ボランティア34人、計90人参加。ほほえみメロディサークルによる歌謡ショー・職員の盆踊りで楽しんだ。

②敬老祝賀会－9月13日（土） 利用者家族27世帯家族48人・来賓13名参加。利用者と一緒に、毎月の訪問カラオケボランティア佐野・小柳氏と昔の歌を楽しみ、今年も自分で選んで食べるという寿司ライブで「**選択の楽しみ方**」が出来た。

③新年祝賀会－1月3日（土） 福笑い・羽子板など正月の遊びを行い、飲酒される利用者はお酒を味わい、楽しむことが出来た。

第3 部門別の状況

1 管理・事務部門

(1) 全体運営（マネジメント）について

全体運営の基本は「PDCA（計画→実践→チェック→処置*再チャレンジ）」としてデータや根拠に裏付けられることを必要要件とし、「科学的エビデンス」に基づく実践に取り組んできている。

1年間の実践のポイントは、①介護力の向上、②安全な施設整備環境、③収支バランスの取れた運営（稼働率等）、④福祉施設としての社会的貢献性を根底において取り組んできた。

(2) 事務、経理等について

予算の有効活用が図れるよう、毎20日までに執行状況を本部に報告し、施設長に資金収支計算書を提出し、管理運営会議で予算の執行状況を施設長が報告できるようにした。

収入については、利用者負担金が徴収不能にならないよう資金管理を行い施設財務を維持している。

介護保険請求のミスを防ぐために、二重チェックを行い請求漏れ・請求間違いのない事務を遂行した。

管理室主幹と共同で物品購入時安価なものの購入・節電対策を行った。施設管理部門は先に示した通りである。

(3) 諸会議開催状況

①職員全体会 3回

ア 第1回－6月6日（金） テーマ「おむつ外しに向けた取り組みと実践を学ぶ！！」高麓デイサービスセンターきすみれ 原川大介係長 講演と事例説明。

イ 第2回－10月24日（金） 後期事業計画論議と腰痛予防講義。

リスクマネジメント委員会（事故防止）から事故分析、担当からの視点を発表。

- ウ 第3回－3月17日(火) 27年度事業計画の説明及び「介護力向上委員会2年間のまとめ」報告
- ②管理運営会議 12回(4/25・5/29・6/23・7/25・8/20・9/22・10/24・11/25・12/22・1/26・2/27・3/17)
- ③専門会議(委員会)
- ア 介護部主任・副主任会議 12回(4/25・5/29・6/23・7/25・8/20・9/22・10/24・11/25・12/22・1/26・2/27・3/17)
- イ トライアングル会議 12回(4/25・5/29・6/23・7/25・8/20・9/22・10/24・11/25・12/22・1/26・2/27・3/17) 2F、3F 共各3名出席
- ウ 介護部フロア会議 2階フロア 3回(4/23・8/20・11/25)
3階フロア 4回(6/13・8/20・11/17・2/16)
- エ 介護部グループ会議
2階大空グループ 2回(4/23・6/11)
2階輝きグループ 1回(4/23)
- オ 医務室会議 6回(4/30-6・6/25-7・8/27-6・10/30-7・12/24-8・3/10-8)
- カ 介護力向上委員会 13回(4/25-12・5/29-10・6/23-12・7/25-10・8/20-11・9/22-12・10/24-11・11/25-11・12/22-11・1/26-8・2/20-9・2/27-9・3/17-9 *一線以下は参加人数)

(4) 研修活動

◇OJT(職場内研修)

- ①ボディメカニクス・腰痛予防研修－11/14 17名・11/28 22名
- ②看取りケア・AED講習 1/15 31名 1/23 25名
- ③副主任業務者研修 6/23 10名
- ④看介護連携・調整学習会 7/3 12名
- ⑤自己課題設定学習一年間 全員対象

◇OFF-JT(職場外研修)

①第12回全国老施協介護力向上講習会

第1回 5/23・24 3名 第2回 7/17・18 3名 第3回 9/18・19 3名
第4回 11/20・21 3名 第5回 1/22・23 3名 第6回 3/19・20 3名

②自立支援介護フォローアップ研修 8/25・26 2名

③法人研修 5/21 1名 8/11 2名 11/21 2名 12/17 1名 計6名

④その他の職場外研修・出張

ア 公的出張(県老施協総会等)	4回 6人
イ 中東遠地区職種別研究会	8回 8人
ウ 高齢者福祉大会「発表」等他の職場外研修	16回 21人
エ 介護支援専門員専門・実務者研修	対象-3人

2 介護部門

(1) 目標

・科学的根拠（エビデンス）に基づいたケアを展開しつつ、入居者の真のニーズに添い、介護力向上に継続して取り組み、職員個々が気づきの視点を養う。

- ① 多床室型ではあるが、個の生活空間を大事にし、入室する時はノックし、「失礼します」を言うように努め、個の空間を意識するように努めた。
- ② ケース記録用紙を変更し、水分量・歩行の記載等のデータを正確にすることで介護向上へと繋げた。また、エピソードを記録し「家族への手紙」の内容を充実させた。
- ③ 介護力向上への取り組みも2年目入り、水分・歩行・下剤の廃止・布パンツへの移行等取り組んできた。常食化への取り組みについても他職種（管理栄養士）との関わりを増やし、お互いの職種への理解や専門性を高め、より良いケアへ向かう事が出来た。

(2) 反省・課題

- ① 介護力向上に取り組み始めて2年目であるが、職員全員に知識や必要性が十分に理解されていないところもあり、知識の差が出ないようにしていく事が課題である。
- ② 介護力向上に取り組むことで個別ケアには繋がったが、実際、事例対象者と事例対象者から外れた人とは関わりやケアの面で差が出てしまったことがあり、入居者ケアにアンバランスが出来てしまったことは反省課題であり、入居者本人、家族の思いに添ったコミュニケーションなどを通じて職員が聞き取る、感じ取る事が出来る必要があると思われた。
- ③ 記録の業務の見直しの取り組みは勤務終了時間を意識し声を掛け合ったり、業務を分担するなど各フロア毎工夫し業務を行ってきている。

(3) ショートステイについて

目標を「入居者、ショート利用者の情報の共有をし、よりよいケアを目指す！」としたが日常の情報の多さに対処しきれず、情報伝達、共有が出来ず統一したケアに不十分さがあった。そのため、利用者にとってもCWにとってもよいケアに繋がらない時があり、また、ショート担当グループであるがために、日々業務内容や利用者が変わっていく状況に追われ、余裕を持った対応が出来ず、スピーチロックにあたるような声掛けを行ってしまう時も見られたことが反省課題である。

(4) 各グループ総括

◎2階「輝きグループ」

目標として①80%以上の水分1500ml以上の摂取、②リハビリパンツ使用者→布パンツへの変更(100%)、③2か月に1回グループ会議を開催し、介護力向上の為の勉強会を実施した。

①に対しては80%以上は達成出来てないが、工夫をして水分設定や摂取方法を発信しケアができたと思う。運動量の問題や季節などで変化がある。水分の必要性について理解し、

提供方法を工夫する等の意識が足りなかったと思う。

②に対しては布パンツ使用者 11 名。オムツ使用者は 1 名（3 月 31 日現在）であり、まだ改善の余地があると思われる。

③定期的なグループ会議、介護力向上の勉強会については上半期はグループ会議を定期的
に開催出来ていた。その際介護力向上の研修報告や勉強会が出来ていたが、下半期会議の
開催が困難であった。学習については定期的に各職員がブックレットを読み返したりして
きた。

◎ 2 階「大空グループ」

目標は、①おむつ外しへの取り組み、②(日曜日を有効活用する為の)環境整備・清潔保持
とした。①については、水分摂取量 1500ml 以上の人は 4 名のみとなった。明確にデータ評
価ができておらず提供時のケアを統一ができていなかった。

布パンツへの移行については 14 名の利用者中 8 名が布パンツへ移行している。

課題としてはどうすれば水分増加につながっていくのか。ケアの統一を図るためのアプ
ローチの工夫が求められている。

◎ 3 階「愛グループ」

目標は、①「忘れるな！指さし確認！声だし確認！飲み込み確認！」、②言葉遣いとナラ
ティブケアで、利用者、職員の笑顔が絶えない環境を創る、ということとした。

①については、毎朝ミーティングで目標を言うことで、みんなの意識が強くなり誤薬の
事故が減った。ただ、飲み込みの確認がしっかりとできていない時があった。

②については、業務が忙しいと「待つて」と言ったり笑顔が出ないなど、言葉遣いにも慣
れが出て丁寧語にならないという不十分さが残った。

◎ 3 階「若さグループ」

目標は、①余暇活動の時間をつくる！とした。結果、介護力向上に取り組んで 5 名の対
象者を選び、歩行・立位訓練・常食化に向けて成果を得られ利用者がいた。余暇活動につ
いては、意識が高まり、空いた時間に何しようか？等とよく CW から聞かれる様になつた
り、少しでも時間のある時や出勤人数に余裕がある時は、利用者に楽しい時間を過ごして
いただくとする意識付けは出来たと思う。

3 相談員部門

(1) 入居稼働率の維持について（目標値－99.5%）

入居ベッド数 70 床のうち、約半数の退去があり、入居が追いつかない状況となり、空床
率が上昇した。

居宅ケアマネジャーや入所先施設相談員等への働きかけ、申込者へのこまめな連絡を実施
し、円滑な入所ができるよう努めてきたが稼働率アップに対しては一層の努力と工夫をし
ていく。

(2) 入居者・家族等の関係性・かかわりについて

PC ソフト（ほのぼの）の確認と、入所者や家族等からの「生の声」を聞く事を重点に置

いた。「生の声」を聞く事で、ニーズに付随する部分も感じ取る事ができ、コミュニケーションの充実にも繋がった。

可能な限りフロアを訪問し、入居者の「声」を聞くよう心掛けた。また入居者懇談会（6月16、17日・1月27日、3月6日）家族懇談会（6月）で思いを聞き取り、面会時等でも関わりの中からも信頼関係を築いていけるよう努めた。またニーズに対しては「出来る事」「出来ない事」を明確化させないと、誤解や信頼関係の崩壊に繋がる恐れもあるため注意が必要と感じた。

（3）ボランティア受入についての継続

小中学生ボランティア…7/19 夏祭り 6名 11/16 運動会 10名 12/21 クリスマス会 8名
また夏祭りへは11名の大学生、専門学校生の参加があった。

（4）入居受付の動向と対応

事前連絡なしの申し込み来園者も、全体の5割程度とまだ多く、複数名で受付業務が行えるための整備が必要と感じた（マニュアル等の作成）。

（5）社会的・経済的機能の脆弱性に対する対応（地域への社会福祉施設としての貢献性）

今年度、菊川市地域包括支援センターからの入居依頼に対し3名を入居に繋げる事が出来た。また居宅ケアマネジャーや他施設相談員等からの困難ケースの入居依頼に対しても、状況や施設の主体的能力を考慮し積極的な受け入れを実施する事が出来た。困難ケース等には行政に協力を得る事で、スムーズな入居に繋げるよう努めると共に、施設の社会的役割を果たせるよう努めてきた。

4 医務室（看護）部門

（1）介護看護ケア連携について

1回目は8～10月・2回目は12月～1月（医療的ケア推進委員会主導）に吸引吸痰等の指導を行ってきており、新規採用CWに医療的知識・技術の向上のための研修指導を行った。特定行為の50時間研修実技指導を対象者1名に実施した。業務中やオンコール等の報告から見ると介護職員の知識面は成長したと感じている。

（2）感染症に関しては、職員全体でノロウイルスの勉強会（10/24）を行い感染対策を周知したが、インフルエンザについては、1月25日から2月10日までインフルエンザA型の感染を見た。蔓延については該当フロアだけに留めることができ、他の階への蔓延を防ぐことができた。疥癬についても5月から9月までの感染を見たが当該フロアだけに留めることができた。

（3）看取りに対する学習については、アンケートを行い、意見交換を含めワンポイントレッスンを1月に2回（看取り委員会）、実施した。

看取り加算は17名の加算を取得することができた。

（4）褥瘡対策委員会ではクッションについての検討や皮膚観察の学習を行って、褥瘡の発生を減少・重症化を防いだ。（褥瘡予防対策委員会）

（5）家族対応について

多くの家族が施設での看取りを希望し家族と施設の信頼関係を構築してきたが、家族によっては十分な理解をしていない場合もあり、病院対応を含め病状の悪化の際には緊急な症状報告が求められ、施設看護職員の守備範囲を超える場合もあり対応に苦慮する場面もあった。緊急時での連絡方法については、一層、連絡を密にすることが求められている。

(6) 入居面接・嘱託医師との対応

入居面接については、室長・主任・副主任の3人の交代で対応可能になり、家族や相談員の都合を優先できる形がとれてきた。新人看護職員の途中加入があり、嘱託医師との対応についてはまだ十分でないところが見受けられるが今後の課題としたい。

(7) 看護職員の資質向上について

各担当看護職員による振り返りを含めた利用者を継続的にみた意見の発信・介護職員との協議については不十分さが残った。

看護職員としての知識・スキルの向上については、家族との対応・嘱託医師との対応・訪問調査への対応については、全ての看護職員が同一水準で出来ているとは言えず不十分であった。医務室内での学習会の開催を行なう事は出来なかった。

5 給食部門

(1) 食生活の充実について

昨年度より実施している「フロアでの食事の盛付」を20回行った。食事時には車椅子から椅子へ移動し、足を床に付け食事するよう食の環境に心がけた。年度末には委員と各部署代表職員とが給食委託業者チェッシーの基に業者の業務内容を見直した（食生活改善委員会）。

(2) 食事の楽しさを増やす・体調に合わせた食事の提供

旬の材料を使用し、季節の行事食を行ってきた。イベント食については新たに「手作り柏餅と新茶を楽しむ会」を取り入れた。今年度は新メニュー、選択食も取り入れ利用者の希望に沿える食事の提供に努めた。利用者の体調に合わせ食事形態の変更等を多職種協働で速やかに対応する事が出来た。

(3) 常食化への取り組み

常食化への取り組みは介護力向上委員会の目標であり、積極的に「入れ歯」の調整を行い、段階を追って食事形態を上げ、常食化になるよう多職種協働で進めてきた。

(4) 栄養ケア・マネジメント実務の充実

栄養ケア・マネジメントにおいては、入居時点で速やかに情報収集を行い、早い段階で栄養ケア計画の作成を行った。また、各職種協働で栄養ケア評価を行いリスクの高い利用者には栄養補助食品を補給し栄養改善に努めた。

(5) 衛生管理の徹底

委託業者と共に厨房内の衛生管理に努め、食中毒の発生を防ぐことが出来た。また10月の職員全体会議において「ノロウイルス対応のシミュレーション」を行い、「ノロウイルス

対応マニュアル」(感染症対策委員会)を完成させた。

来年度の課題として、食生活改善委員会の取り組みアンケートでは、「軽食持参で外出したい、利用者のリクエストメニューを取り入れて欲しい」等の希望やテーブルと椅子の高さの調整、音の問題等ハード面の改善が提起されている。

6 各委員会活動報告

(1) リスクマネジメント委員会 (事故防止・苦情解決・身体拘束廃止・褥瘡対策・個人情報) 12回 (4/2-14・5/29-14・6/23-16・7/25-16・8/20-15・9/22-14・10/24-14・11/25-14・12/22-14・1/26-13・2/27-14・3/17-14)

<苦情解決委員会>

今年度の苦情は12件(h27.3.31現在)であり、苦情内容については、施設全体に対する重大なものについての周知はしっかりなされ、全員のものとしたが軽易な苦情についての職員への周知が十分でなく、情報の共有化がされなかった面があった。

<個人情報保護委員会>

毎月の気付きを報告し意識付けのポスターを制作した、26年度は情報管理として千寿サーバーが活用を始めたがロックする手間、どの文書にロックするかの判断等が難しく課題となった。

<身体拘束廃止、虐待防止委員会>

エプロン、タオル使用、車椅子食事の見直しを目標としたが、未だにフットレストから足を下ろさず上がったままの時もあるなど、取り組みとしては不十分さが残った。

<事故防止委員会>

事故レベル表の作成・事故種別の検討を行い、事故報告を面会時にする利用者家族に対するの対策等に取り組んだが、同じ利用者に事故が続いてしまうなど、検討や対策が徹底できていないということもあり、確実に関係する他職員が情報を取得しておく必要がある。

<褥瘡対策委員会>

褥瘡の勉強会(7月6日・8月1日・9月3日)において、「軟膏の種類・使い方」と「褥瘡のレベル(ステージ)」の資料を褥瘡委員で作成し質問の回答のまとめを行い、学習会を開催した。

効果の確認・・・各居室担当CWの意識も観察の力が高まり、褥瘡が減少した。

(2) 感染症・食中毒対策委員会 9回開催(8/8・9/1・9/15・9/19・10/2・10/7・10/14・10/24)

・10月24日 『感染症講習会』の実施・内容：ノロウイルスなどの消化器系感染症対策ーノロセット内容説明・吐物処理方法、ガウンテクニック実演。

・1月15日 『感染症等予防対応について』

→家族・介護支援事業所へ広報・職員の家族が感染した場合の対応配布。

・3階インフルエンザA型発生～終息までの対応を書面で配布。

(3) 看取り介護委員会 10回開催(5/26・6/30・7/29・8/25・9/25・10/27・11/27・12/15・1/持ち回り・2/23)

26年度は17名の看取り加算を取得することができた。

ワンポイントレッスン(1月)で、講義形式を用いて看取り期の身体的変化と家族対応に関する知識を深める学習を行った。

医師からの家族IC時に、施設ケアマネジャー・相談員も同席し家族の反応を確認すると共に思いを受け止めて穏やかな看取りを実施できるよう勤めた。

(4) 医療的ケア対策推進委員会 10回開催 (5/26・6/30・7/29・8/25・9/持ち回り・10/27・11/27・12/15・1/15・2/23)

今年度はAEDによる心肺蘇生研修・吸引・経管栄養指導を実施したが、更に医療知識を深める学習が今後の課題である。

(5) 衛生委員会 9回開催 (5/26・6/30・7/29・9/21・10/27・12/22・11/17・12/17・1/持ち回り・2/23)

柔道整復師による職員の腰痛軽減への取り組みを実施し、職員個別カルテの作成、移乗困難入居者の移乗方法見直しを行ったが、時間中に実施が出来ず不十分であった。負担の少ないトランスファーの指導・介護補助用具の導入を行っているが徹底は出来ていない。

(6) 食生活改善委員会 11回 4/25-16・5/29-11・7/25-12・8/20-17・9/22-15・10/24-17・11/25-16・12/22-16・1/26-14・2/27-15・3/17-15 (*ー以下は出席人数)

昨年度と同様、フロアでカレーの盛付や麺にあつあつの汁をよそうなどの取り組みを行った。カレーについては2年目に入り利用者に浸透されてきた。従来のイベントに加え新たに「手作り柏餅と新茶を楽しむ会」を取り入れた。「クリスマス スイーツバイキング」は「選ぶ楽しさ」があり、好評であった。メニューに関しては、「選択食」を取り入れた。

環境面では車椅子食事の見直し、業者については食生活改善委員等が業者チェックシートに記入し、今年度の反省と意見、来年度計画の提出を求めた。

(7) 広報委員会 9回開催 (4/14・5/28・6/18・8/24・9/5・11/4・12/11・2/1・3/4)

掲載写真について、3階はショート利用者、2階は掲載不可のご利用者が多いため2階の写真を広報紙に掲載する事が出来ないといった事があった。行事が一目見て何の行事なのかわかる写真を撮っていくことを課題とする。

(8) 防災委員会 6回開催 (4/16・4/24・5/27・8/31・10/15・12/1)

地域防災の日に合わせた地域との共同訓練において、地域の参加者が多く時間配分等を考慮する必要があった。法人全体の安否確認「コミュメール」の配受信は今後の課題である。

(9) 法人苦情解決委員会 1回開催(11/27) 堀尾孝・朝比奈りう子第三者委員出席
・苦情3件(千寿の園)・3件(居宅支援事業所) 計6件を報告。

更に重大な苦情はその都度、文書、電話、面談で報告を行ってきている。

(10) 研修委員会 2回 (4/10・7/17) ワンポイントレッスンの企画を作った。

第4 短期入所生活介護事業所

ショートステイの中にも医療的支援の必要性が増えてきていて、年々状態の変化が見られる。また、ショートステイから施設入居者は、14名であり、そのうち、11名が当施設への入所の経緯であった。

稼働率については、上半期は80%の稼働であったが、下半期は、感染症の発症・リピーターの利用終了等により、70%を割る稼働率であった。稼働率低下の原因については、上記のこと以外、他施設入所・利用料未払い者の利用中止等が考えられる。

送迎については、送迎専門員以外、新たに非常勤ケアワーカーを導入し5名体制で臨み、スムーズな送迎が可能となったことと現場ケアワーカーの終了時送迎付添いについて、時間・人員の許す限り、人員を割くことも実施した。

苦情については、家族⇄施設双方の思いに相違があり、理解不足が生じる時もあるが、今後とも気持ちよくショートを利用してもらうことを念頭にサービスの提供に努めていく。

第5 居宅介護支援事業所

1 安定した居宅介護支援の提供に努める

安定した支援提供に関しては、事業所内での情報共有と課題への対応が出来たと考える。支援依頼に関しては依頼があったことに対して断る事無くすべて受託することが出来た。

又、市等から新規依頼について指名される事があり、地域において当事業所の支援内容が一定評価されたと考えられる。困難事例に関する依頼についても同様で、今後選ばれる事業所作りに更なる努力を続けていくことが必要とされる。

2 事務業務の合理化と管理体制の構築

ファイルの更新・パソコンのソフト変更等や柔軟な居宅会議の開催により、突発する事象に対応が取れる体制作りが出来たと考える。

3 情報発信の手段の構築

情報発信の手段として前半に2度、後半に1度情報紙を発行してきており、今後も有効な発信手段として取り組んでいきたい。

4 居宅支援に対する防災対策の構築

市ケアマネジャー協議会防災部会での活動として、11月には市内介護保険事業所を一堂に会して災害時机上訓練を実施した。当事業所としても体外的な連携体制の土台は出来たと評価し、今後の取り組みとしていく。

千寿の園資料編

(平成26年度/平成27年3月31日現在)

特別養護老人ホーム千寿の園

1 介護度別利用(入居)者数

(平成27年3月31日現在)

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
男性	1	1	1	5	6	14
女性	1	2	10	28	13	54
合計	2	3	11	33	19	68
割合(%)	2.9%	4.4%	16.2%	48.5%	27.9%	100.0%

平均要介護度	3.94	(男性 4.00	女性 3.93)
平成25年度	4.10	(男性 4.00	女性 4.13)

2 年齢別利用(入居)者数

(平成27年3月31日現在)

	64歳以下	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳～94歳	95歳以上	合計
男性	1	2	0	1	3	4	1	2	14
女性	1	0	1	2	13	20	7	10	54
合計	2	2	1	3	16	24	8	12	68

(平成26年3月31日現在)

	合計
男性	15
女性	55
合計	70

3 利用(入居)者平均年齢

(平成27年3月31日現在)

	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	82歳8ヶ月	60歳11ヶ月	97歳
女性	85歳8ヶ月	62歳2ヶ月	101歳5ヶ月
合計	84歳	-	-

(平成26年3月31日現在)

	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	83歳1ヶ月	59歳11ヶ月	96歳0ヶ月
女性	87歳7ヶ月	61歳2ヶ月	100歳5ヶ月
合計	86歳7ヶ月	-	-

4 在所期間別利用(入居)数

(平成27年3月31日現在)

	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	4年以上	合計
	男性	6	2	1	1	
女性	21	8	9	5	11	54
合計	27	10	10	6	15	68

(平成26年3月31日現在)

	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	4年以上	合計
	男性	6	3	2	0	
女性	12	11	11	6	15	55
合計	18	14	13	6	19	70

5 食事介助状況者数

(平成27年3月31日現在)

区分	人数	割合
全面介助者	17	25.0%
一部介助者	18	26.5%
介助なし	33	48.5%

(平成26年3月31日現在)

区分	人数	割合
全面介助者	22	31.4%
一部介助者	18	25.7%
介助なし	30	42.9%

6 入浴介助状況者数

(平成27年3月31日現在)

区 分	人数	割合
特別・中間浴	45	66.2%
一般浴	20	29.4%
個 浴	3	4.4%

(平成26年3月31日現在)

区 分	人数	割合
特別・中間浴	51	72.9%
一般浴	18	25.7%
個 浴	1	1.4%

7 排泄介助状況者数

(平成27年3月31日現在)

区 分	人数	割合
おむつ使用者	4	5.9%
紙ハンツ又はトイレ介助者、 ポータブルトイレ使用者	46	67.6%
歩行、杖等でのトイレ使用者	18	26.5%

(平成26年3月31日現在)

区 分	人数	割合
おむつ使用者	15	21.4%
紙ハンツ又はトイレ介助者、 ポータブルトイレ使用者	41	58.6%
歩行、杖等でのトイレ使用者	14	20.0%

8 面会状況

(平成26年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成25年度
人 数	210	226	175	181	224	224	250	242	261	267	167	251	2,678	2,131
1日平均人数	7.0	7.3	5.8	5.8	7.2	7.5	8.1	8.1	8.4	8.6	6.0	8.1	7.3	5.8

9 外出(帰省)状況

(平成26年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成25年度
人 数	7	3	6	5	8	7	7	5	6	9	2	8	73	49
日 数	10	3	6	5	11	7	11	5	10	12	2	8	90	54

10 入居・退去状況

(平成26年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成25年度
入居者数	2	4	0	4	1	4	2	4	3	2	4	4	34	19
退去者数	2	4	2	4	2	1	4	4	2	3	4	5	37	19
月末在籍者数	70	70	68	68	67	70	68	69	69	69	68	68	824	834

(平成26年度)

	入 居			退 去			平成25年度			
	男 性	女 性	合 計	男 性	女 性	合 計	入 居	退 去		
人 数	9	25	34	10	27	37	19	19		
入居前及び 退去時の状況	居 宅		19	死 亡		33	居宅	10	死亡	17
	病 院		5	他施設・長期入院		4	病院	1	他施設 長期入院	2
	施設(老健等)		10	居 宅		0	老健等	8	居宅	0

11 苦情受付状況

1) 苦情受付件数

(平成26年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成25年度
苦情受付件数	1	1	0	0	0	3	0	1	2	3	1	0	12	8

2) 苦情の分類一覧

平成26年度

苦情の分類	件数
ケアの内容に関わる事項	10
個人の嗜好・選択に関わる事項	0
他の利用者・職員に関わる事項	1
面会者に関わる事項	0
財産管理等に関わる事項	0
施設内規に関する事項	0
その他	1
合計	12

平成25年度

苦情の分類	件数
ケアの内容に関わる事項	6
個人の嗜好・選択に関わる事項	0
他の利用者・職員に関わる事項	0
面会者に関わる事項	0
財産管理等に関わる事項	0
施設内規に関する事項	0
その他	2
合計	8

12 他医療機関への受診状況

平成26年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平成25年度
内科	1	1	2	2	1	4	1	2	1	1	2	1	19	29
精神科													0	0
脳外科													0	3
整形外科	0	0	1	2	0	1	1	1	3	1	1	1	12	27
外科		1	1	1				1					4	1
泌尿器科		1			1								2	5
眼科				1	1		2						4	5
皮膚科		13	7		11	6	5		1		1	1	45	15
歯科	4	1	1	4		10	6	3	4	1	0		34	26
耳鼻科			1		1			1	1	1	1	1	7	0
合計	5	17	13	10	15	21	15	8	10	4	5	4	127	111

13 入居者・利用者医療状況

1) 入院状況

平成26年度

治療科	人数	治療科	人数	平成25年度	
内科	10	泌尿器科	0	9	0
循環器科	0	整形外科	2	0	0
外科	1	精神科	0	0	0

2) 処置状況

(平成27年3月31日現在)

処置状況	人数	処置状況	人数	(平成26年3月31日現在)	
経口与薬	68	経管栄養	4	66	4
創傷処置	9	バルーンカテーテル挿入	1	16	0
軟膏塗布	19	浣腸、摘便	9	20	16
点眼	7			9	

3) 嘱託医師定期外往診状況()は電話指示依頼

4) オンコール出勤回数・()は電話対応のみ回数

平成26年度

平成26年度

月	回数	月	回数	平成25年度	
4月	0(3)	10月	4(12)	2(4)	2(5)
5月	3(7)	11月	4(11)	1(5)	2(7)
6月	2(11)	12月	1(10)	0(3)	2(6)
7月	1(7)	1月	3(10)	0(4)	5(25)
8月	1(1)	2月	2(8)	2(7)	0(8)
9月	0(3)	3月	4(7)	1(2)	0(6)
合 計		25(90)		17(82)	

月	回数	月	回数	平成25年度	
4月	1(6)	10月	5(2)	1(4)	2(3)
5月	5(4)	11月	3(2)	1(4)	2(3)
6月	3(2)	12月	2(2)	0(1)	3(0)
7月	1(3)	1月	4(4)	0(1)	3(7)
8月	2(2)	2月	4(3)	4(6)	2(7)
9月	2(3)	3月	3(3)	1(3)	0(2)
合 計		35(36)		19(41)	

14 所在状況

(平成27年3月31日現在)

保険者名	在籍者数	入居・退去状況		平成25年3月31日現在		
		入居	退去	在籍者数	入居	退去
菊川市	61	31	31	59	18	16
掛川市	6	2	3	7	1	1
牧之原市	0	0	1	1	0	1
島田市	1	0	1	2	0	0
浜松市	0	0	1	1	0	0
その他	0	0	0	0	0	1
合 計	68	33	37	70	19	19

15 入居申込み(待機者)状況

(平成27年3月31日現在)

市区町名	申込者数	平成26年3月31日現在
菊川市	211	238
掛川市	11	20
御前崎市	3	3
静岡市	1	1
島田市	3	3
牧之原市	2	2
磐田市	2	2
県外	3	4
合 計	236	273

16 ボランティア(慰問)状況

平成26年度

月 日	団体名(代表者名)および個人名	内 容
4/8~1/13	ハーモニー青葉 計8回	ハーモニカ演奏と利用者と一緒に歌う
4/9~3/11	書道ボランティア 計11回	書道指導
4/11~3/27	傾聴・おはなしボランティア 計22回	利用者とのコミュニケーション
4/14~3/16	カラオケボランティア(2名) 計10回	利用者と一緒にカラオケで歌を歌う
7月19日	学生ボランティア17名	行事(夏祭り)のお手伝い
7月19日	ほほえみメロディ10名	夏祭り歌謡ショー
8月10日	菊翠会	日本舞踊披露
10/18~10/19	3丁目・4丁目・5丁目上・柳町自治会	菊川市祭典・踊り披露
11月16日	小中学生ボランティア10名	行事(運動会)のお手伝い
12月21日	小中学生ボランティア9名	行事(クリスマス会)のお手伝い

17 ボランティア(奉仕)状況

平成26年度

団体名(代表者名)および個人名	内容	年間日数	延人数	団体名(代表者名)および個人名	内容	年間日数	延人数
民生・児童委員	清掃・傾聴	10	17				

18 事故調査状況

(平成26年度)

	<所見>	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平成25年度	
		転倒・転落	骨折													0
	創傷			3		2	1			1			1	8	6	6
	熱傷													0	0	0
	打撲			2		2		1	1	1	2			9	9	9
	表皮剥離						2					1		3	3	3
	その他		2			1				1	1			5	5	5
	外傷なし	4	5	6	3	7	2	2	2	10	10	2	4	57	46	46
	内出血					2		1						3	2	2
	異常なし	2			1			1	1	1	2		1	9	10	10
	外傷	3	5	7	11	9	3	4	4	4	3	7	9	69	158	158
	誤嚥・誤飲								1	1			1	3	4	4
	誤薬		1		1		1	1	1	1		1		7	11	11
	投薬ミス	1		2	1	4	1	1	1	2	1	1	1	16	36	36
	異食		1	1									1	3	6	6
	器物破損			1										1	9	9
	利用者同士のトラブル													0	3	3
	忘れ物	2	1	1	4	4			1		1			14	12	12
	その他			1		1		2		1				5	2	2
	合計	12	15	24	21	32	10	13	12	23	20	12	18	212	322	322

19 実習状況

(平成26年度)

学校名等	実習名	年間延回数	延人数	平成25年度	
東海福祉専門学校	介護福祉士単位実習	1	2	3	6
〃	希望実習	4	6	1	1
TAP	ヘルパー初任者研修	1	1	4	4
静岡市歯科衛生士専門学校	歯科臨床実習	2	2	2	4
合計		8	11	10	15

20 短期入居生活介護利用状況

(平成26年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成25年度
利用者人数	42	42	42	48	51	50	43	39	39	40	28	39	503	534
総利用者数	224	231	222	278	275	244	227	213	211	202	116	205	2,648	2,953

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均利用率	平成25年度
1日平均	7.4	7.4	7.4	8.9	8.8	8.1	7.3	7.1	6.8	6.5	4.3	6.6	7.2	8.10
送迎回数	90	95	93	109	111	107	86	85	79	62	51	79	87.3	93

21 居宅介護支援事業所利用状況(平成27年3月31日)

1) 新規登録者(要介護度者+要支援者)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成25年度
男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3	9
女性	1	1	1	1	2	0	1	1	1	2	1	1	13	12
合計	1	1	1	1	2	0	1	1	1	3	1	3	16	21

2) 要介護度契約者(介護度別1~5)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成25年度
新規実績	1	1	0	0	2	2	0	0	2	2	2	0	12	19

3) 契約終了者(死亡及び施設入所等者)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成25年度
男性	2	1	1	1	0	0	1	0	0	2	1	0	9	4
女性	0	0	0	1	2	0	2	0	0	2	3	0	10	10
合計	2	1	1	2	2	0	3	0	0	4	4	0	19	14

4) 介護度別実績契約件数

ケアマネジャー2人

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成25年度
要介護1	21	19	20	21	22	20	18	18	18	20	19	17	233	300
2	25	25	25	24	22	22	23	22	23	25	24	25	285	235
3	15	14	14	13	13	13	13	12	14	15	17	14	167	156
4	9	9	8	9	8	8	8	9	8	8	8	10	102	95
5	0	0	2	1	1	1	1	1	0	0	0	0	7	10
合計	70	67	69	68	66	64	63	62	63	68	68	66	794	796

5) 包括支援センターより介護予防委託実績件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成25年度
件数	10	11	10	11	11	13	15	14	14	13	13	11	146	111